

# 所報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第149号 令和元年 12月 6日

## 江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 TEL 381-1058

(主な内容)

- ・「朝運動プログラム」普及出前授業
- ・大麻小6年生が「英語deトライ」
- ・ALTと行う中学校英語授業の参観
- ・第74回道研連研究発表空知大会報告

## 「朝運動プログラム」普及出前授業

大麻西小・江別第二小・中央小・上江別小・野幌若葉小



「朝運動プログラム」普及出前授業は、北翔大学と文京台小学校が長年連携し取り組んできた体力向上プロジェクトの考え方や実践内容を市内各小学校に広めることを目的に、H25年度から始まりました。今年度は、大麻西小学校、江別第二小学校、中央小学校、上江別小学校、野幌若葉小学校の低学年で実施しました。

文京台小学校では始業前の短い時間帯に実施してきましたが、普及出前授業は1コマの体育の授業として実施しています。その意味では、体育の授業改善のための一つのモデルとして観ていただくのが良いと考えています。

大宮准教授の子どもたちをやる気にさせる言葉かけや指導のスピード感、走・跳・投・リズム・バランスなど様々な運動要素を取り入れた遊びなど、どれをとっても大変参考になりますので、良い面をどんどん体育授業に取り入れることを勧めています。特に、豊富な運動量には目を見張るものがあり、こういった方針を日常の授業で続ければ、子どもたちの体力向上の大きな力となることでしょう。

## 大麻小6年生が「英語deトライ」

児童が日常生活に使用する英語を用いた英会話に挑戦する機会をつくり、楽しさや達成感を味わわせることを目的に、大麻小学校に依頼して11月18日(月)に「英語deトライ」を実施しました。スーパーやスタジアムなど5カ所のブースをセットした体育館で、児童がグループごとに国際交流員やALTと自己紹介や道案内、目的地での会話などを行うというものです。

ALTたちのユーモアによって大麻小学校の53名の6年生は時々笑いや笑顔を見せるなどリラックスして英会話を楽しんでいました。



## 小学校外国語教育指導者交流会

# A L T と行う中学校英語授業の参観

小学校の外国語教育の充実に向けて、小学校の教職員が中学校の英語教師の授業を参観して学ぶことを目的に、毎年行っている取組です。

今年度は大麻東中学校の加藤孝章教諭とA L T マシュー・ジョンソンに、江別第一中学校の鬼頭孝史教諭とA L T ロス・サザーランドにお願いしました。



参観した小学校の先生たちのアンケートでは両中学校に共通して、①授業のテンポや展開が速い②指示や発問がほぼAll Englishで日本語は補足程度③生徒の聴く力がハイレベル④書く活動がメインと言えるぐらい多い⑤文法をきちんと押さえている、などの感想が多く寄せられました。

## 第74回北海道教育研究所連盟研究発表大会空知大会 参加報告

令和元年8月29日（木）30日（金） 滝川市

開会式では、北海道教育研究所長でもある北村善春北海道立教育研究所連盟委員長の主催者挨拶から始まり、空知教育局長などの来賓挨拶がありました。全体発表では、コンテンツやビデオ通話ソフトウェアによる遠隔研修の支援などについての発表がありました。

記念講演は、国立教育政策研究所の上野耕史教育課程調査官が行いました。①教育研究所や所員に必要な資質能力は、教員が必要とする資質能力の育成を支援できる資質能力である。②ICTや人工知能等は人間の叡智を結集して生み出してきたものであり、私たちは予測できない変化を時代の要請として前向きに受け止めなければならない。③プログラミングが子どもたちにとって必要なものであることを実感させ、その推進に興味・関心を持たせ、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子どもたちに育むことが大切となる。④学習の基盤となる資質能力として、これからは「情報活用能力」が言語能力や問題発見・解決能力等と同列となる。⑤「主体的な学び」では「必要性のある問題」が大切となり、「対話的な学び」によって自分の考えがまとまっているかが分かる。「深い学び」は各教科の特質に応じた「見方・考え方」が中核であり、習得・活用・探究の過程を通して、その教科の「見方・考え方」をさらに豊かなものにすることがねらいである。⑥これからのカリキュラム・マネジメントで大切なことは、教育内容を教科等横断的な視点で配列し、教科単独では生み出し得ない教育効果をもたらす教育課程にすることである、などが印象に残った講演内容でした。

「プログラミング教育の全面実施に向けた取組」部会の協議では、最終的にどのグループの課題も共通して①プログラミング教育のカリキュラムの整備②必要な機器等購入のための予算要望、③プログラミング教育に関する教職員研修、の3点でした。

上野耕史教育課程調査官は大会のまとめとして、①小学校でプログラミング教育を実施する教科等は、算数・理科・総合的な学習の時間である。②デメリットが考えられる場合は教科書では触れていないはずで、プログラミング教育推進によって教科の特質を失ってはならない。あくまでも「教科として成り立つのか」の観点が大切となる。③いずれ大学入試にプログラミング教育が導入される見通しである、の3点について触れていました。